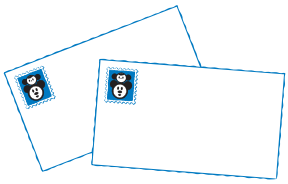

Letters

レターズ / 加入者や保護者の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

奈良県
O・Yさん（母）

スマイルズ春号のS・Hさんの投稿に共感です。

この春、高校生になった長男がいます。私も息子の気持ちに寄り添ってすることが反比例するように息子は捉え、動きます。思春期の男の子にとって、母親はただただ煙たい存在でしかなく、中学の3年間は何を言っても何をしても否定的な反応しか返ってきませんでした。今はお互いに笑顔を交えながら会話ができるようになりましたが、渦中にいるときは本当に壮絶なバトルを繰り広げました。

ただ一つだけ、バトル中でも、どんなに気分が晴れなくてもしていたことがあります。それは、「行ってきます」の手合図。

夫とは同級生でぶつかることも少なくなかったのですが、生前最後に見送った時、笑顔だったことが私を救ってくれています。そのことがあるから、「出かけるときは笑顔で」を心掛けています。

S・Hさんは、夜、息子さんとウォーキングしているとのこと、その時間のふれあいがあれば、きっと大丈夫です。

石川県
すーさん（母）

子どもが今年度、小学校を卒業します。子どもが5か月の時に、飲酒運転の車により夫の命を奪われてから、1人で子育てしてきました。早かったようで、でもやはり長い長い大変な12年でした。これからも、子どもが大人になり社会に出るまで、責任を持って頑張ります。

☆助けてくださる方々へ

本当にありがとうございます。見ず知らずの私たちへの優しい気持ちにどれだけ助けてもらったか…皆さんの存在は生きていく支えになっています。

滋賀県
Mikiさん（父）

いつもお世話になりありがとうございます。

早いもので妻の事故から一年が経ちました。私たちの場合は引越しなどもあったので、子ども達も転校しました。ようやく少しは慣れてきている様子ですが、まだまだ心配です。できるだけ子ども達との時間を大切にし、一緒にいるように心掛けています。母親の代わりには決してなれませんが、私なりに頑張っていこうと思っています。

また、子ども達と一緒にいるとどうしても怒らないといけない場面があるのですが、怒り過ぎてしまうのが自分のダメなところです。あとで必ず後悔してしまいます。もっと自分自身が成長しないといけないなあと思う毎日です。

東京都
F・Kさん（母）

この度、給付完了、夫の19回目の命日を迎えることとなり、改めて色々なことが思い出され、感慨深い気持ちです。

夫が亡くなったのは、息子が生後6か月の時でした。その小さかった息子の存在こそが、私の心の糧となり、これまで前向きに生きてくることが出来ました。そんな息子は昨春高校卒業後に就職し、休日には趣味を楽しむなど、充実した日々を送っています。すっかり頼れる存在へと成長してくれて親として非常に嬉しい気持ちでいっぱいです。

基金の皆様にはたくさんのご支援をいただき、生活を支えて下さったことに、心より感謝申し上げます。19年間、本当にありがとうございました。

K・O さん（母）

いつもお世話になっております。5歳だった長男が19歳に…最後の振込日を迎えることが出来ました。

突然主人がいなくなった日、兄から教えられ交通遺児等育成基金にすがる思いでお世話になりました。

我が家の「道しるべ」だった主人がいつも口にしていた言葉、「子ども達の学びたい気持ちを応援してやりたい！」を叶えることが出来たのも、交通遺児等育成基金があったからだと思います。野球を続けてきた長男は、この春大学に進学できました。あの日の基金の小さな灯りは、14年を経て大きな炎となり息子の歩む道を照らし支えてくれています。長い間、本当にありがとうございました。

奈良県
M・T さん（母）

次女がもうすぐ6年生になる春に、突然の事故で夫が亡くなりました。この3月で8年…。もう8年、でも家族にとっては長い長い8年間でした。

どう生きていったらいいのかわからない中、ただただ目の前のことをしていくのに精一杯。頼りない母親だったと思います。長女は高2、受験前のデリケートな時期、よく頑張ったと思います。次女も昨年大学生となり、育成給付金で安心して進学できたことをありがたく思います。長い間ありがとうございました。

M・M さん（加入者）

父が亡くなってから8年が経ちました。長かったような気もするし、短かったような気もします。私ももう大学2年生です。育成給付金のおかげでイベント等に参加することが出来たのは、今でも家族の良い思い出となっています。長い間ありがとうございました。

匿名希望さん

4月より息子は高校生になります。交通遺児となったのは4歳の時、その後10年の月日が経ちました。つい先日まで息子の小さな手を「ぎゅっ」とつかんで歩き、大切に守りながら生活してきましたが、いつの間にか私の前を歩き、複雑なスマホの操作や、流行のものなど、たくさんの情報をくれます。少しさびしく思うこともありますが、手を離して見守る時期になったのだと感じています。まだまだ成長していく息子と楽しく過ごそうと思います。

福岡県
O・M さん（母）

この度は基金完了のお知らせとお祝いをありがとうございました。長い間、親子共々あたたかく見守っていただき、そしてご支援いただき、本当にありがとうございました。夫が亡くなった後、いろいろな悩みや大変なこともありましたが、基金様のご支援や親族の支えで前向きな気持ちを取り戻せました。

おかげ様で息子は希望の大学へ進学し、目標に向かって頑張っています。時折、大学生になった息子は父親と男同士の会話がしたい時があるんだろうなあと感じてちょっと寂しくなることもありますが、親子共々、支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

兵庫県
M・C さん（母）

いつもお世話になりありがとうございます。昨年末、最終の給付金と完了給付金、図書カードをありがとうございました。

娘は今年度より大学一回生。神戸市内ではありますが、大学の近くで寮生活をしております。娘が11歳の時に主人が他界して以来、たくさんの方々に見守り、支えられ、まもなく20歳を迎えようとしています。

皆様のおかげで、感謝する心をしっかり持った娘に成長しております。今後は私たちが恩返しをしていきたいと考えています。本当にありがとうございました。

となりのレターズ

みんながとなりに寄り添う「もう一つ」の LetterS

基金に加入している保護者の皆さんに寄り添う連載「となりのレターズ」。今回は、基金を卒業された保護者 W さんに、これまでの生活や子育てについて話を伺いました。W さんは現在58歳。24年前にご主人を亡くされて以来、仕事をしつつ、2人の息子さんを育ててきました。事故に遭遇されたときご長男は7歳、ご次男は2歳だったそうですが、現在はおふたりとも立派に独立。W さん自身も充実した時間を過ごしていらっしゃいます。読者の皆様の手がかりにしていただけましたら幸いです。

第3回　保護者体験談編　北海道札幌市　息子さん 2人を育てた Wさんの場合

夫が亡くなったという突然の出来事に私は呆然自失……。しばらくは何も手につきませんでした。ちょうど夏休みに入ったばかりのころでしたので、夫の兄と義姉が子連れで1か月ぐらい一緒にいてくれて、心身とも大きな支えになってもらえたのがとてもありがたかったことを今でも思います。子どもたちが遊んでいる姿を見ていることで、気がまぎれたのです。でも、子どもは小さくて子育ても大変でしたし、しばらくは何かしようという気持ちにならず、私自身が病院へ通いながら子育てをしていました。

一周忌を過ぎて、やっと何かする気持ちに

何かしようと思えるようになったのは、夫の一周忌を終えたあたりからです。子どもたちの成長する姿を見て、「私も頑張らなくちゃ」と思い、チラシの配布にトライしてみました。それがご縁で現在の仕事に巡り合い、最初は子どもを実家の母に預けて短い勤務時間からスタートして、徐々に働く時間を増やしていき、最終的にはフルタイム勤務になりました。もう20年近くになりますが、現在もその仕事をしています。

思春期で荒れた子どもと対決

子育てに関しては、思春期が大変でした。どちらかというと長男ですね。高校時代は学校にも呼ばれましたし、夜中に出て行ったりして曲がった道に行きそうなことも。大学も2年で中退してバイトをしていて心配でした。私はその都度、真剣に向き合っていたのですが、怒鳴り合うことが多かったですね。そんなある日、手紙を書いて思いを伝えることを思いついたんです。「私はこう考えるので就職をしたほうがいいと思うよ」とか、ちょっとオチャラケた感じで「こんな仕事のチラシが入っていたよ」と言って仕事の選択肢を提示してあげたり……。簡単なメッセージだったのですが、これがとても良かった。対面で話すと感情的になりがちでしたが、手紙だと長男が意外に私の思いを素直に聞いてくれて、就職もしてくれたのです。今から思うと、子どもを信じて向き合ったことが良かったと思います。子育ては独りでもふたりでも一緒。そのときどきで真剣に対処することが大事なのだと思います。

〝時薬〟がきっと癒やしてくれます

事故から24年が経ち、現在息子は2人とも無事に独立。親子関係も円満で、私もつつがなく仕事ができて幸せです。これまでいろんなことがありましたが、あっという間でした。いまも夫のことを思い出すと悲しいですが、時が癒してくれたのでしょうね。事故直後とは違って、自分の気持ちと冷静に向き合えていると思います。だから読者の父兄の皆さんも、いまは辛いと思いますが、時間が解決してくれると思って頑張ってみてください。私のように思える日が迎えられることを心から願っています。

〈編集部より〉

Wさんの体験談はいかがでしたか？ 少しでも読者の皆さんの心のささえとなれば幸いです。Wさんはご次男が就職したとき、これまでずっとそばで支えてくれた義姉さんから「はい。これで子育て終了！ これからはもう子どもを構わなくていいんだよ」と言われて、とてもうれしかったそうです。今後は「コロナ禍対策を十分にしたうえで、そろそろ趣味の旅をしてみたい」とのこと。今後も充実した日々を過ごされることを、編集部一同、願っています。また、基金に加入していたことも「心の支えになっていた」ともお聞きして、とても励みになりました。なんと『Smils』も気に入った号を保存していただいているそうなんですよ！ そんな冊子になるように今後も頑張ります !!